

# + 第53回日本人工関節学会 ランチョンセミナー2

「変わりゆくTKAのトレンド：パラダイムシフトが生じているのか？」

## 日時・会場

2023年2月17日（金） 12:00 - 13:00

第2会場（パシフィコ横浜ノース G303+G304）

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目1

## 座長

松田 秀一 先生 京都大学大学院 医学研究科整形外科 教授

## 演者

岡崎 賢 先生 東京女子医科大学 医学部整形外科学教室 教授

- 本セミナーは整理券制です。配布日時につきましては学会Webサイトをご確認ください。  
（配布場所：パシフィコ横浜ノース 1F 総合受付）
- 本セミナーは現地開催となります。
- 当日会場からのライブ配信はありません。後日学会HPからオンデマンド配信を予定しております。  
（配信期間予定：2023年2月20日(月)～3月31日(金)）

- 認定単位：日整会専門単位 1単位（N）
- 必須分野：12. 膝・足関節・足疾患

+ お問い合わせ先  
スミス・アンド・ネフュー株式会社  
メディカルエデュケーション部  
Email: [OrthoMedEd.JP@smith-nephew.com](mailto:OrthoMedEd.JP@smith-nephew.com)

## 岡崎 賢 先生

東京女子医科大学 医学部整形外科学教室 教授

### 「変わりゆくTKAのトレンド： パラダイムシフトが生じているのか？」



TKAの設置アライメントの考え方に変化が生じてきている。理想の設置目標とされてきたメカニカルアライメントはTKAの長期成績向上の為に重要な考え方である。関節面や骨・インプラント界面にかかる応力の不均衡を軽減させることで耐久性を向上させた。それとともにインプラントの開発や手技の工夫がなされたが、正常膝と比較した場合にいくつかの不一致も指摘されていた。関節面を機能軸に垂直にしたため、正常膝にある生理的な関節面傾斜が消失した。脛骨と大腿骨の関節面傾斜はそれぞれMedial proximal tibial angle (MPTA)とLateral distal femoral angle (LDFA)で表現されるが、これらを90°に修正することは内側と外側のジョイントラインの変化をもたらす。このことが時に中間屈曲位の不安定性や外側顆のオーバースタッフの原因となるとも指摘された。そこでMPTAとLDFAを正常に近い約87°としたインプラントも開発された。しかし、健全な膝にも個体差があることも指摘されてきた。そのため、機能軸を参照とするのではなく、関節面を指標として患者本来の関節面にあわせて設置するKinematic alignment法も提唱された。また、患者ごとのMPTAとLDFAの組み合わせで下肢アライメントを分類してTKAの設置を検討するという概念としてCPAK分類が提言された。患者個別のMPTAとLDFAを参照することで、安全を担保しながら患者固有の関節面になるべく近づけていくという考え方である。そのためにはどのような手技があるのか。ロボットがなくても可能なのか。これらのアライメントのトレンドは、これまで培ってきたTKAの長期成績を損なうことなく、患者満足度を向上させることができるのか。パラダイムシフトと呼べる成果が得られるのか、それともただの流行りで終わるのか。様々な疑問に今後答えていく必要がある。